

天理市埋蔵文化財センターだより

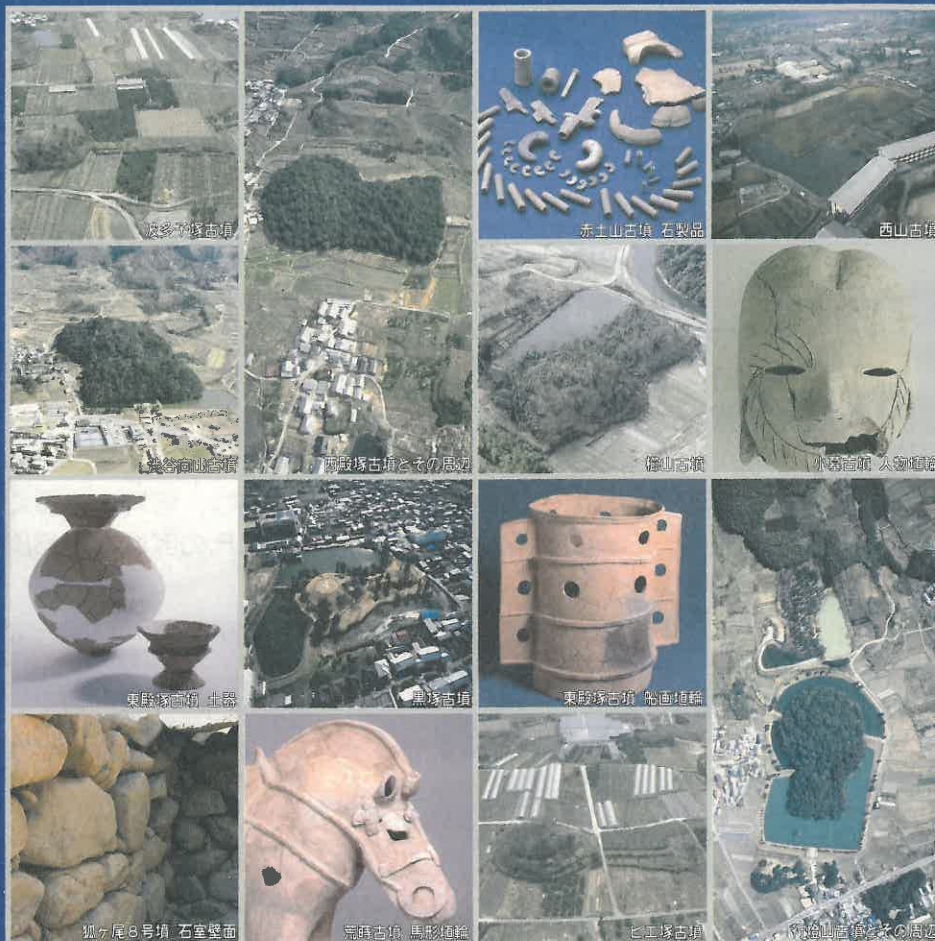
Vol.19

天理市制
60周年

平成26年度冬の文化財展

古墳のまち天理

平成27年
1月17日(土)~
3月15日(日)



◎平成26年度冬の文化財展

天理市制60周年記念 古墳のまち天理

平成27(2015)年1月17日(土)~3月15日(日)

※ 9:00~17:00

※ 月曜日、2月11日(水・祝)は休館

会場：天理市文化センター1階展示ホール

◎文化財講演会

日程 平成27年2月15日(日) 10:00~16:00

会場 天理市文化センター3階文化ホール

◎展示解説

会場 天理市文化センター1階展示ホール

【第1回】

日程 平成27年1月25日(日) 14:00~15:30

【第2回】

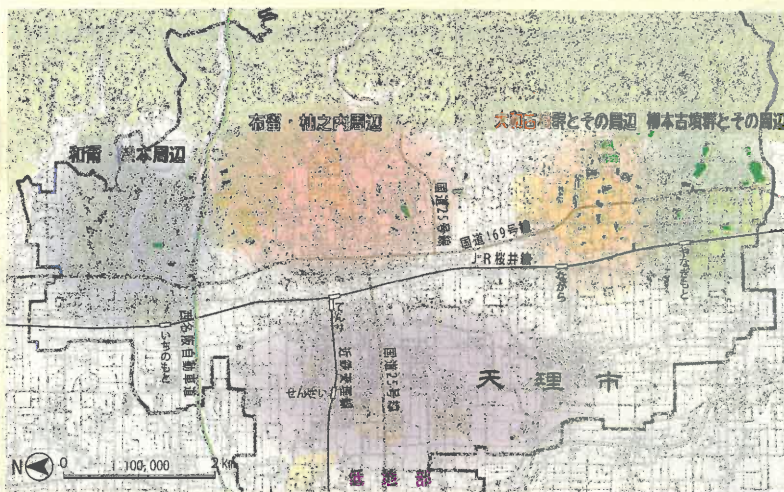
日程 平成27年3月1日(日) 14:00~15:30

天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18(2006)年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

平成26(2014)年度が天理市制60周年にあたることを記念して冬の文化財展『古墳のまち天理』を開催し、これまでの調査成果を一堂に展示します。今回のセンターだよりでは市内の古墳について簡単にご紹介いたします。

古墳のまち天理

天理市には1500基以上の古墳が存在し、県内屈指の「古墳のまち」です。天理市教育委員会はこれまでに30年以上にわたって市内の古墳の発掘調査に取り組んできました。今回は市内を5つのエリアに分け、市教育委員会が調査した代表的な古墳や遺跡を中心にご紹介いたします。



■和爾・櫛本周辺



赤土山古墳は櫛本町の東大寺山丘陵上に立地する古墳時代前期後半の前方後円墳です。各斜面には葺石が施され、後円部墳頂と中段平坦面に埴輪列がありました。また、後円部造り出しの南側で発見された祭祀遺構には家形埴輪などが多数並んでいました。現在は史跡整備事業が完了し一般に公開されています。

天理市北部の和爾地域には、丘陵上から丘陵裾にかけての広大な範囲に広がる和爾古墳群・和爾森本遺跡を中心に、古墳時代の遺跡や墳墓が密に分布しています。その南の櫛本地域には、東大寺山丘陵上に東大寺山古墳群が立地し、丘陵裾にも長寺遺跡周辺や岩屋谷周辺に多くの古墳が築かれました。

和爾・櫛本地域は古代豪族ワニ（和爾・和邇・和珥）氏の本拠地とされています。この地域の古墳や遺跡は、応神以後多くの大王（天皇）に妃を送り出した有力豪族ワニ氏の実像に迫る鍵を握っています。



赤土山古墳では、もともと後円部墳頂にあった埴輪列が、古墳築造後に発生した地震に伴う地滑りで南側斜面に滑り落ちていました。



墳丘の地滑りによって後円部墳頂の埋葬施設が破壊された際に流出した副葬品。後円部南側斜面で見つかりました。

■布留・杣之内周辺



布留川の形成した扇状地に広がる布留遺跡は、古墳時代中期から後期を中心に首長居館や大型倉庫、工房、大規模な水路などがつくられた巨大な集落遺跡です。そして布留遺跡の南側には、日本列島最大前方後方墳である西山古墳を盟主とする杣之内古墳群、北側には大群集墳として知られる石上・豊田古墳群が立地します。

布留遺跡は6世紀代の政治の実権を掌握した物部氏の本拠地とされ、周辺の古墳群もその墓域としての性格が指摘されています。



西山古墳は一段目のみ前方後方、二段目から上は前方後円という特異な墳形です。



小墓古墳から出土した盾持ち人埴輪。



石上・豊田古墳群狐ヶ尾8号墳では横穴式石室が見つかりました。

西山古墳は杣之内古墳群の北部に所在する前方後方墳です。墳丘は全長約190mあり、前方後方墳としては全国最大です。杣之内古墳群の南部には西乗鞍古墳や小墓古墳など、古墳時代中期末～後期に築かれた前方後円墳が集中しています。石上・豊田古墳群では多くの横穴式石室が調査されています。

■大和古墳群とその周辺



西殿塚古墳は萱生町に所在する前方後円墳で、大和古墳群最大の規模を誇ります。特殊器台や特殊器台形埴輪、円筒埴輪が出土し、古墳における埴輪祭祀の初期の姿がみられます。東殿塚古墳は西殿塚古墳に続いて造られた前方後円墳で、前方部の西側には埴輪や土器を配列した特殊な施設が造られていました。

おおやまとこふんぐん

大和古墳群は越川を北限、岸田川を南限とする南北幅約1.5kmの範囲に展開する古墳群です。西方に鎮座する大和神社の宮郷である「大和郷」に重複して分布することからこの呼称があります（萱生古墳群と呼称されることもあります）。古墳時代前期初頭～前期前半を中心に、墳丘長230mの巨大古墳である西殿塚古墳を筆頭として、さまざまな階層の古墳が集中的、継続的に造営されました。古墳群中に前方後方墳が多く含まれているという点（ノムギ古墳・波多子塚古墳・下池山古墳など）は、他の前期古墳群に見られない特徴です。



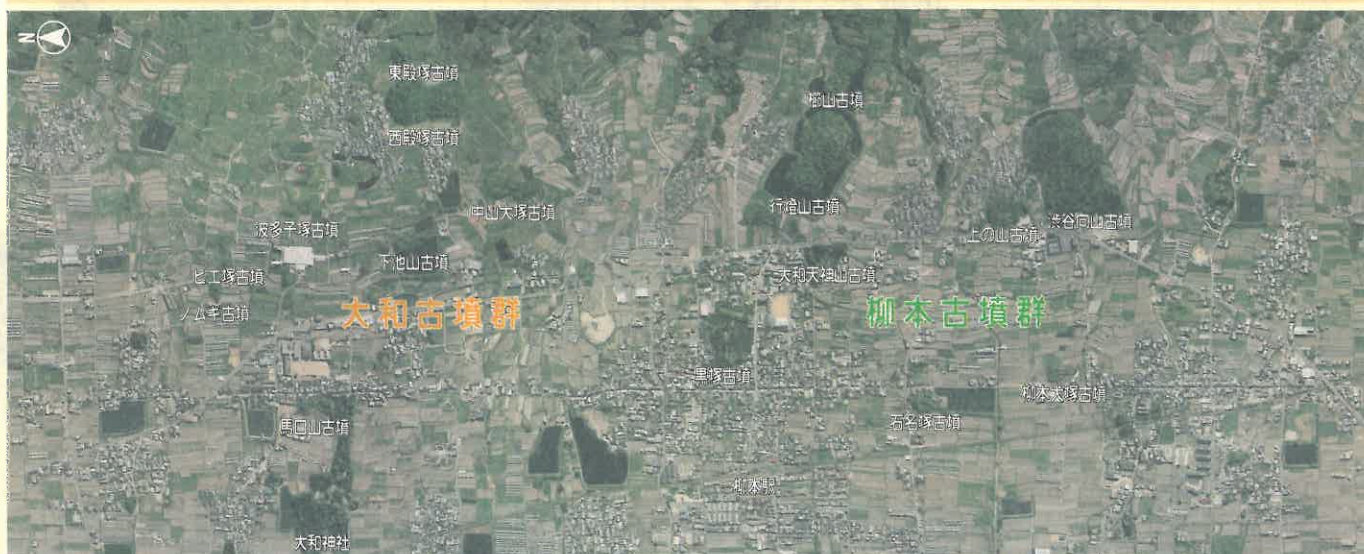
西殿塚古墳出土。特殊器台の面影を残す埴輪です。



東殿塚古墳で見つかった埴輪群。西殿塚古墳の埴輪に比べると新しい要素が見られます。



ノムギ古墳は大和古墳群最古の前方後方墳と考えられています。



■柳本古墳群とその周辺



やなぎもとこふんぐん

柳本古墳群は真面堂川を北限、烏田川を南限とする丘陵台地～扇状地に立地し、中央付近に西門川が流れて地形を二分します。西門川が流れるシュクン谷北側の尾根上に立地する柳本支群は行燈山古墳（崇神天皇陵）が筆頭です。南側の尾根上に位置する波谷支群は古墳時代前期では最大の古墳である波谷向山古墳（景行天皇陵）を盟主とします。このほか、西方の上ツ道沿いにも3基の古墳が散在します。桜井市の纏向古墳群、天理市の和古墳群とともに、日本列島を支配した王権の成立を考えるうえで重要な古墳群です。

くろづかこふん

黒塚古墳や大和天神山古墳では、竪穴式石室の発掘調査がおこなわれ、副葬された多量の鏡が出土しました。古墳群の周辺では、古墳の造営に関わった人々の集落と考えられる遺跡も発掘調査により見つかっています。



黒塚古墳では未盗掘の竪穴式石室が発掘調査され、多数の三角縁神獣鏡が出土しました。



柳本遺跡で見つかった古墳出現期の土器。柳本古墳群造営に関わった集落と考えられています。

■ 低地部

天理市内の古墳時代の古墳・遺跡は、その多くが盆地東縁の山麓に集中していますが、盆地中央寄りの低地部にも一定の分布があります。近年の開発の進展に伴って未知の古墳や遺跡が発見されることも増えています。

荒蒔町の荒蒔古墳は共同住宅建設に伴う発掘調査で見つかった古墳で、埋没した周濠から多量の埴輪が出土しました。



出動！ 発掘現場レポート！！

平成26年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成26(2014)年度上半期に発掘調査を4件（うち前年度からの継続調査1件）件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■都市計画道路別所丹波市線事業に伴う調査〔前年度から調査を継続〕
豊田町内での調査で新たに未知の横穴式石室が発見されました。石室の調査は平成26年度下半期以降も継続します。

■成願寺遺跡第21次・フサギ塚古墳第2次
個人住宅建設に伴い調査を実施しました。古墳南側は耕地化の際に大きく地形が改変されたらしく、遺構などは見つかっていません。

■前栽遺跡第9次・中ツ道跡
市立病院建て替えに伴い調査を実施しました。調査地付近は近現代の削平が著しく、時期不明の自然流路1条のみを確認しました。

■西乗鞍古墳第4次
国史跡指定に向けた範囲確認調査を実施しました。古墳の周辺に周濠と外堤が遺存していることがわかりました。



■平成26年度上半期の調査遺跡



■別所丹波市線事業に伴う調査
豊田町内で新たに発見した横穴式石室



■西乗鞍古墳第4次
航空写真(北西から)

平成26年度の調査成果は
来年度の文化財展で
展示するよ！



市役所1階 織田柳本藩伝来の鎧兜展示のお知らせ

天理市柳本には、かつて織田一族の末裔である織田柳本藩がありました。現在、柳本町伊射奈岐神社が所蔵する織田柳本藩城主の鎧兜を市役所にて展示しています。

会場：天理市役所1階ロビー

期間：平成27(2015)年12月24日まで（予定 会場や期間は変更となる場合があります）

※土曜、日曜、祝日は閑居しています

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.20 は、平成27年度発行予定です。
お楽しみに！！

天理市制60周年

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆富光株式會社